

岐阜県立森林文化アカデミーから横井秀一先生をお迎えして

里山講習会 in 憩いの杜

作成：清水環 2013年 3月29日(土)



1. 開催場所： 桑名市 憩いの杜
2. 開催日： 平成25年3月17日(土) 天候：晴れ
3. 講師： 岐阜県立森林文化アカデミー 横井秀一教授
4. 参加者： 松永、裏川、瀧口邦、瀧口朱、大石、高崎、櫻井、蒲田、小坂、辻、清水

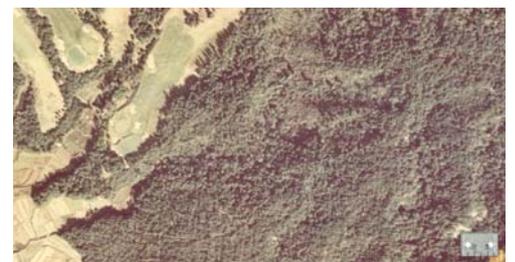
(育成) 上林、北村、岩田、 (研修参加) 14名 計28名

横井先生がフィールドとされているのは積雪の多い内陸県で地域性によって森づくりは異なるからと、温暖な太平洋側にある桑名市のこの里山はやはりシイ、カシ、タブが多い?など樹種の確認をしながら歩き始めました。そしてまず「木の名を覚えずして木を伐るな」というお言葉をいただきました。



地名はその土地柄をよく表していて、経緯を知ることも大事だと、日本の森林の歴史から伺いました。そして先生がリュックから取り出したのは…、なんと「憩いの杜」の最新の空中写真と、40年前の写真。古きも新しきも知識を自在に操れるのはかっこいい～。今後、この里山にやってこられた方々に魅せるひとつの方法をお土産にいただきました。(カシミール3Dというフリーソフト教えていただきました。同じ写真を出してみましたよ → →)。

ゴールを設定しなければ施業はできない。目的は?散歩するため外から眺める森なのか入っていくための森なのか。たくさんの問いかけと知識の伝授がありました。



憩いの杜 1974-1978

憩いの杜は林内に小道を作り、散策に入っても危険の少ない森、舗道沿いのウリハダカエデを大事にするなど景観を重視し市民に親しまれる森を目指しています。先生から、現在の里山というのは「すでに育っている森」であり、それをどう作っていくかということ、と私たちの活動を定義していただきました。

憩いの杜は住宅街のそばであることから、まずは危険木の除去、そしてゾーニング。ほっとくところはほっとく、整備するところは今いるデカイマツやコナラはいるべきものなのか、低木層、常緑広葉樹はどれをどんなふうに残すのか、手間をどれくらいかけられるのかによって全部切るのか、植栽するのか萌芽を待つのか方法も変わる。施業前に悪いイメージも想定してみてもその後と比較し森づくりの判断基準を養うこと。



憩いの杜 最近

さらにいつまで管理できるのかを考えれば、ノウハウを地域に残すことは大事、工作系「食べられます」系の木を入れるなど管理のモチベーションを下げない工夫をする…。

樹木の更新、土壌の性質、CO2の換算などなど森づくりは総合知識の結集ですね。賢くならないと！先生ありがとうございました！ご参加いただいた方々ありがとうございました！！